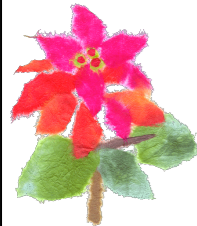


# コイノニア



12月になりました。今年は11月28日の日曜日からアドヴェントがスタートしました。アドヴェントとはクリスマスを待つ期間で「待降節」と呼ばれています。この間にクリスマスを迎える準備をするのですが、修学旅行に期末テスト、大学入試に就職試験など、クリスマスのことなど考える余裕はありません。そうでなくても私たちの日常はとても忙しいです。早起きして登校し、6時間の授業を受け、さらに7時間目や8時間目があるクラスもあります。それから着替えて部活動をしたり、急いで帰ってアルバイトに行ったり、塾や習い事に行ったり…。寮生のみなさんは、夜遅くまで練習した後に、洗濯機を回したり、部屋の掃除をしたり、決められた学習時間に勉強をしたり、夜の飯トレや筋トレをしたり…。自分のことで精一杯の毎日を過ごしていると思います。

でも、実はイエスが誕生したときも、人々はせかせかと忙しく過ごし、イエスが生まれたことなどほとんどの人は気がつきませんでした。イエスは人々の心にも、そして社会の中にも余裕など全くなかったときに生まれたのです。

「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」マタイによる福音書1:21

誰にも知られず、その誕生を受け入れられなかったイエスは、大人になると悲しんでいる人に優しく声をかけ、淋しい思いをしている人の心を少しずつ開いていきました。イエスと関わった人々は心に余裕ができ、今度は別の人々のことを考えるようになり、支え合ったり励まし合うことができるようになりました。イエスは人と人をつなぎ、豊かに、そして平和に生きることを教えてくれました。クリスマスはそのスタート地点なのです。

私たちはその歴史の延長線上に生きています。今、自分のことで精一杯でも、自分のことしか考えられなくても、これから必ず心に余裕がうまれるときが来ます。そして誰かと支え合ったり励まし合うステキさに気がつくときがやってきます。みなさんにとって、クリスマスがそのような出発点となりますようにお祈りしています。

## 聖書・キリスト教の漢字～これなんて読むの？～ #08 「没薬」

「没薬(もつやく)」という言葉は、新約聖書でクリスマス物語の中に記されています。イエス・キリストの誕生をお祝いしに来た占星術の学者たちが持ってきた宝の箱の中に入っていた物です。「家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を探み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。」(マタイ2:11)

没薬とはミルラの木(カンラン科)の樹液で、「聖油と言われ、胃薬や香料に、屍体の防腐剤などに用いられる。とくにパレスチナの人々には高価な輸入品として珍重された。」(『キリスト教を知る事典』外村民彦・著ノ教文館)というものです。イエスもお腹が痛くなったとき、占星術の学者たちからプレゼントされたこの没薬で元気になったのかもしれないね。

## 12月の予定 月間聖句

「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」(マタイによる福音書1:22)

## 月間テーマ 20日(月) クリスマス礼拝

イエスの誕生をみなで祝います。今年は合唱に演奏に、音楽礼拝形式で行います。また、献金のご協力もお願いします。被災地支援のために用います。

## 松山学院ものがたり #08 同志社で学んだ先輩たち(1) 今井新太郎



夜学校での、礼拝や祈禱会・聖書講義で信仰が芽生えた今井新太郎は、卒業後の進路について悩み、石手川の堤で祈っていたときに、「同志社へ行け。汝の道は開かれる。」という神の声を聞いて、同志社への進学を決意しました。在学中は新聞配達などをしながら学費を貯め、苦勞しながらも一生懸命に学びました。

あるとき、ジャクソン宣教師が同志社を訪ね、歴史の授業を参観しましたが、授業後に励ましと優しい言葉をかけられた彼は、感動して号泣してしまいました。同志社卒業後すぐに松山に戻り、夜学校本科の主任教師となってジャクソン宣教師や西村清雄を助けました。キリスト教の精神が土台となっている建学の精神を生徒たちに熱心に伝え、神を信じて困難なことにも耐え抜いて生きていくことの大切さを教えた彼は、「信仰を深め、祈り励ましあって伝道や奉仕活動することを目的にソルト会が誕生する原動力を育てた。」(創立110周年記念誌より抜粋)と語り継がれています。1921年(大正10)にアメリカのユニオン神学校に留学し、帰国後は金沢の教会で牧師をしていましたが、1939年(昭和14)以来、東京家庭学校の校長となり、社会福祉事業に貢献しました。東京都杉並区の議員に選ばれたこともあり、地域の人々からの信頼も厚かったそうです。

## ☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆

## バスケット部に祝福あれ!

先月の県大会で優勝し、東京で開催される全国大会(ウィンターカップ)に出場するバスケットボール部。彼らが練習試合で着用する「リバーシブルシャツ」というのを知っていますか?前面の大きなロゴは、車輻のチャペル外観、特に象徴的な十字架の塔がデザインされています。サイドにはステンドグラスで表された炎がデザインされていますが、炎はキリスト教のペンテコステ(聖霊降臨節・教会の誕生)について記されている聖書箇所(使徒言行録2:3)に出てくる言葉で、神さまの現れを意味しています。また、炎を表すギリシア語には「火をつける・燃やす」という意味もあります。神さまがバスケット部に現れ、選手1人1人の心に火をつけ、全国の舞台上で「松学バスケ」を完全燃焼できますように!

この松学らしいデザインは、岡田先生とEGOZARUのデザイナーさんとの出会いによってうまれました!

